

第5期介護保険事業計画の評価・検証で、見えてきた課題と対応策 (地域支援事業を除く)

資料 3

大分類	小分類	第5期計画との乖離	課題	第6期で対応すべき事項
人口	高齢者人口	約400～500人の差(計画が少ない)	差を少なくする	企画政策課の人口推計の精度を検証し、使用する
認定者	要介護(要支援)認定者数	約130人～170人の差(計画が少ない)	差を少なくする	1歳ごとの要介護認定発生率で推計し、精度を高める
給付費	給付費総額	ほぼ計画通りの給付費(約1%の差)	-	-
	各サービス毎の給付費	サービスの種類によっては計画値と実績の差が大きくなっている	サービス量を見直し、計画値との差を少なくする	<ul style="list-style-type: none"> ・国の推計シート(ワークシート)の精査 ・市民意識調査や介護サービス事業者調査からニーズを把握し、給付費を調整
介護保険料	保険料段階	-	多段階化の可否	全国平均に比べ、本市は高所得者が多いため、保険料段階の多段階化の検討
	収納状況	計画上の収納率を超える	特に問題なし	-
介護サービス事業所	特別養護老人ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・計画通り1箇所(萩の台ちどり)を整備済み ・H26年度の1箇所は整備未了 	1箇所の整備未了の取扱	第6期の整備に含めるか否か(特養の入所条件が要介護3以上との関係の整理)
	老人保健施設	20床の増床(優楽)を整備済み	特に問題なし	-
	療養型医療施設	利用減の計画に対し、利用増の現状	今後の利用見込み	国・県の方針によって方向性を検討
	地域密着型サービス事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症対応型共同生活介護1箇所と認知症対応型通所介護1箇所は選定済みで整備中 ・小規模多機能型居宅介護1箇所は整備未了 	1箇所の整備未了の取扱	第6期の整備に含めるか否か
	特定施設	H26年度の1箇所は整備未了	1箇所の整備未了の取扱	第6期の整備に含めるか否か